

平成 21年 4月23日現在

研究種目：特定領域研究

研究期間：2006～2011

課題番号：18078009

研究課題名（和文）

グローバル時代におけるローカル・コモنزの管理

研究課題名（英文）

Management of Local Commons in the Age of Globalization

研究代表者

室田 武 (MUROTA TAKESHI)

同志社大学・経済学部・教授

研究者番号：40104749

研究分野：経済学

科研費の分科・細目：

キーワード：コモنز、ガバナンス、環境、グローバル化、フィールドワーク

1. 研究計画の概要

これまでの国内外のコモンズ研究で十分に検討されてこなかったグローバル時代に対応した地域主導の環境ガバナンスの条件を提示することが本研究の目的である。グローバル時代のローカル・コモنزによる資源管理、およびコモنز内部とコモنز外部のガバナンスの成功・失敗要因を明らかにする研究は、世界的にも極めて重要な研究課題である。

本研究は、経済学、森林政策学、民俗学、東洋史学、法学から総合的にこの問題に取り組み、世界的なコモنز研究の進展にも貢献しようとする研究を展開する。特に、日本に特徴的な入会権、共同漁業権、漁民の森などの意義を世界的に発信することにしたい。

2. 研究の進捗状況

これまでに次の国内調査（1）及び海外調査（2）を実施した。また、現地での公開セミナー（3）を実施するとともに、学会やシンポジウムへの参加を通じた海外研究者との交流を図るだけでなく、他班との連携的関係を構築すべく共同研究（4）を行った。さらには、各種報告書の刊行や刊行予定の和文図書の入稿作業（5）を終えた。

（1）沖縄県本島北部における入会権調査、群馬県熊毛郡上関町における共同漁業権、群馬県吾妻郡草津町における温泉の共同管理、静岡県伊東市池地区にて旧茅場利用地だった入会山の管理・利用の調査、和歌山県有田市・田辺市の財産区等調査、京都府与謝郡伊

根町における漁村調査、愛知県豊田市の13財産区の調査を行った。また、里道調査を長野県小布施町にて、流域管理に関する調査として愛媛県肱川にて現地調査を行なった。

現地調査に加えて、これまで、実態が明らかにされてこなかった財産区について、全市町村を対象にしたアンケート調査を実施し、2007年3月末時点での財産区の現況と、平成の大合併に伴う財産区の変更について調査した。

（2）イングランドのオープンスペース協会における歩く権利、インドネシア東カリマンタン州における地域資源管理の変容、江蘇省呉江市北庫鎮・黎里鎮の漁業村における伝統的な共同性、浙江省紹興市東浦鎮青龍村、浙江省紹興県安昌鎮長楽村の伝統的コモنز、ガーナにおける樹木の共同的な利用・管理、フィリピンの森林管理に関する調査を実施した。

（3）山梨県富士吉田市にて「入会権の公共性」と題する公開セミナーを実施し、入会権の現代的意義と課題について関係住民のみならず広く一般参加者とともに議論を重ねた。岩手県一戸町小繋において、また山口県上関町の入会権紛争について同柳井市にて地元の人々にも公開して班外の研究者らを招いたセミナーを実施し、研究者と一般の人々との交流を行なって研究成果の社会還元の一環を試みた。また、イギリスにおいてウィンチェスター（Winchester）教授（ランカスター大学）らと研究交流会をもち、今後の研究協力体制構築への第一歩とした。

（4）イギリスのグロースターシャ大学にて行なわれた国際コモنز学会第12回世界大

会にて報告を行なった。またウィンチェスター教授の主催するシンポに招待を受け、英国のコモンズ管理についての議論を重ねた。他方、他班との研究連携の第一歩として、宮古島にて合同の研究会を「エコロジカルリスク管理と自然再生」班とともに実施した。

(5) 初年度より継続してニューズレター *Local Commons* を発行している。2007年度に実施した公開研究会の記録を報告書『瀬戸内の里山・里海』としてまとめ、その成果を発信した。また2006年度からの調査成果として刊行予定の和文図書の作成にむけた共同作業を進め、執筆予定者のすべてが担当章を入稿した。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している

研究開始当初に予定していた国内外の事例研究をほぼ実施することができ、加えて新たに浮上してきた諸課題に関する事例調査も進めた。これによって研究内容が深まり、また他班との連携も進めている。

4. 今後の研究の推進方策

(1) ローカル・コモンズに対するグローバル化や、ガバナンスが与える影響をより詳細に明らかにするために、事例研究を継続して実施する。

(2) 領域全体の研究課題を視野にいれ、他班との連携作業を通じて、事例研究から得られた知見の理論化を図る。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計36件)

室田武「瀬戸内海北岸における入会地、神社有地、漁業権の危機—上関原発計画をめぐる司法判断の批判的検討」『経済学論叢 (同志社大学)』査読無, 60(3), 2008, pp.1-37.

Mangala de Z. and M. Inoue, “Forest Governance and Community Based Forest Management in Sri Lanka: Past, Present and Future Perspectives,” *International Journal of Social Forestry*, 査読有, 1 (1), 2008, pp. 27-49.

SAITO, H. and G. MITSUMATA, Bidding Customs and Habitat Improvement for Matsutake (*Tricholoma matsutake*) in Japan,

Economic Botany, 査読有, 62(3)2008, pp. 257-268.

Iwasaki S and Shaw R Fishery Resource Management in Chilika Lagoon: A Study on Coastal Conservation in the Eastern Coast of India, *Journal of Coastal Conservation*, 査読有, 12, 2008, pp.43-52.

[学会発表] (計42件)

Murota, Takeshi, A New Role of Common Spaces for Environmental Conservation in Japan, 12th Biennial Conference of the International Association for the Study of Commons (IASC), 2008年7月18日、University of Gloucestershire University at Cheltenham, England

Gaku Mitsumata, Evolution of the Japanese Commons in Response to Challenges: Contemporary Contributions to Community Well-being, 12th Biennial Conference of the International Association for the Study of Commons (IASC), 2008年7月18日、University of Gloucestershire University at Cheltenham, England

[図書] (計28件)

三俣 学・森元早苗・室田 武編、東京大学出版会、『コモンズ研究のフロンティア：山野海川の共的世界』、2008年、252ページ

井上 真 編、新曜社、『コモンズ論の挑戦：新たな資源管理を求めて』2008年、222ページ

太田 出他編、汲古書院、『中国農村の信仰と生活—太湖流域社会史口述記録集』、2008年、410ページ

菅 豊、福澤昭司、湯川洋司、吉川弘文館、『日本の民俗2—山と川—』2008年、282ページ

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

ホームページ

<http://www.sdgovernance.org/>